

2022 年 11 月 30 日発行

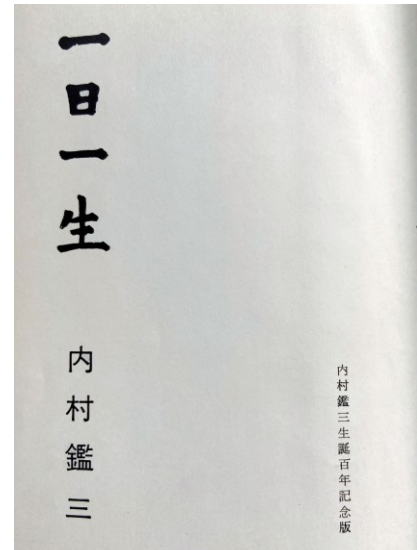
晩年の母に与えられたかすかな信仰

木幡 藤子

大学教師をしていた私が 80 代後半の母を引き取り、介護保険施設や訪問看護師やヘルパーさんをフル活用することになったのは 2002 年の春でした。日曜日に来てくれるヘルパーさんがいなかったのので、私が集会に出かける間、大学院の女子学生に見守りのアルバイトをしてもらうことになりました。彼女はクリスチャンではありませんでしたが、翌年の年末に賛美歌の CD をクリスマスプレゼントとして母にいただきました。母はそれをととても喜び、くり返し聞き、時には一緒に口ずさんでいました。女学生のとき教会に行っていた時期があったのです。

年が明けた最初の日曜日に、私が母に「今日は日曜日だから聖書を一緒に読みましょう」と言うことになりました。こうして私たちの小さな礼拝が 2004 年 1 月 4 日に始まったのです。そして就寝前には、一緒に賛美歌の一節を歌いお祈りをするようになりました。認知症も始まっていたので声を出して読むのがよいということで、私が日曜日の聖書箇所をパソコンに打ち込み、大きな文字でプリントアウトしたものを交互に朗読しました。私の説明がよくないと、「理屈ばかり」と言われることもありましたが、翌年に「クリスマスに何をサンタクロースに持って来て欲しい」と尋ねたところ、「聖書!」という言葉が返って来たので、大きな文字の聖書をあわてて買い求めたものです。

2009 年春の私の定年退職の頃まではゆっくりした下り坂だった母の状態はその後、急激に悪化し、その年の暮れには日曜毎に一緒に聖書を読むことが難しくなってきました。でも、やはりこれだけは理解しておいて欲しいと思った私は、2010 年の 5 月のある日、母の調子の比較的よいときに、以前一緒に読んで心に響いた内村鑑三の『一日一生』の 5 月 8 日の言葉の一部を読み聞かせました。



内村鑑三生誕百年記念版（教文館）

もし救われるはわが行為（おこない）またはわが信仰によるならんか、われは今なお危地に立つ者なり。そはわれはいつ罪を犯し、わが信仰はいつ冷却し、またいつ変移するや、期すべからざればなり。されどもわれは聖書によりて、救拯（すくい）の、わが行為または信仰によるにあらずして、変わりなき神の変わりなき聖旨（みことろ）にもとづくを知りて、われにはじめて真の平安あるなり、その時、われはわが行為の不完全を意とせず、わが信仰の冷却を恐れず、まとえる罪の重荷を脱して、はばからずして神の至聖所に入るをうるなり（ヘブル書 10 章 19 節）。

母はとても集中して聞いていました。読み終えた私が「お母さん、分かりますね」と言ったのに対し、深く頷いていた顔が今も鮮やかに浮かんできます。

（こはたふじこ 大阪聖書研究会）

目 次

表紙・巻頭言	
目次・内村鑑三の言葉	
表紙について・発行趣旨……………2	学校・学寮だより……………8
第34回無教会全国集会報告……………3	各地からの報告……………11
第43回内村鑑三研究会報告……………5	定期集会・特別集会のお知らせ……………12
今井館のステンドグラスについて……………6	事務局便り……………15
	維持会員募集のお知らせ・編集後記……………16

内村鑑三の言葉

戦争廃止に関する聖書の明示

第二十世紀に於ける人類殊に文明国の犯しつゝある最大の罪は戦争である、戦争を詰責ずしてキリストの福音を説くことは出来ない、戦争を許容して基督教は其根本より壊れて了ふのである、(中略)戦争は非戦の唱道に由て廃ま^らない、我等は其事を能く承知して居る、(中略)廃む^らないの問題ではない、正か不正かの問題である、義か不義かの問題である、而して戦争は不正である、不義である、罪惡の絶頂である、故に非戦を唱ふるのである、而して非戦を唱へて我等はバプテスマのヨハネの如くに主の為に道を備ふるのである、故に我等の非戦の声もヨハネの悔改の声の如くに野に呼べる人の声である(馬太伝三章三)、少数者の声である

(選者注:上記は第一次世界大戦中の1917年7月の『聖書之研究』に載ったものであり、本誌33号に引用、今号はそれに続く後半部分から採った。ルビは2箇所以外省いた。『内村鑑三全集』23巻、岩波書店、1982年、287-8頁)。

(選:NPO 法人今井館教友会相談役 大山綱夫)

○表紙について

『今井館ニュース』第54号巻頭言は、木幡藤子さんが、晩年のお母様と持たれた小さな、温かい礼拝についてお書きくださった。写真は木幡さん愛用の『一日一生』の扉です。5月8日の言葉は、私たち一人一人噛みしめたい言葉だと思います。(C.Y.)



『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三(無教会の提唱者)及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする(定款第3条)。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする(定款第5条3項)。